

初めて富山で冬を迎えられる方へ

1. 富山の冬の状況は？

— 2日に1日は雪が降ります（12月～2月） —

富山市は、いわゆる日本海側気候の影響を受け、冬期間は多くの降雪がある地域です。

市内でも山間部は豪雪地帯となっていますが、平野部は比較的積雪量が少なくなっています。

次の表は、降雪期の中心である1月の気温や積雪等の平年値について、富山市と三大都市圏である東京、大阪、名古屋と比較したものです。

1月の平均値

| 項目 | 富山 | 東京 | 大阪 | 名古屋 |
|------------|--------|---------|---------|---------|
| 平均気温 | 2.7℃ | 6.1℃ | 6.0℃ | 4.0℃ |
| 最低気温平均 | -0.1℃ | 2.5℃ | 2.8℃ | 0.8℃ |
| 降雪日数*1 | 19.1日 | 2.8日 | 5.0日 | 6.4日 |
| 積雪日数*2 | 21.7日 | 1.6日 | 0.3日 | 2.1日 |
| 降雪量日合計最大*3 | 29cm | 3cm | 1cm | 3cm |
| 最深積雪*4 | 51cm | 3cm | 1cm | 3cm |
| 平均湿度 | 82% | 49% | 61% | 64% |
| 日照時間 | 68.1時間 | 187.9時間 | 142.6時間 | 170.1時間 |

・表は気象庁の「気象統計情報」をもとにしており、各項目の1981年から2010年までの1月の数値について、30年間の平均を算出したものとなっています。

・「富山」の数値は、富山市の平野部に位置する富山地方気象台の観測データとなっています。

*1「降雪日数」とは、降雪を観測した日の合計日数を表します。

*2「積雪日数」とは、0cm以上の積雪を観測した日の合計日数を表します。

*3「降雪量日合計最大」とは、1日の降雪量のうち、月の最大数値を表します。

*4「最深積雪」とは、月に観測された最も多い（深い）積雪量を表します。



《気温》

1月の富山市内の平均気温は2.7℃、最低気温はマイナス0.1℃と低くなっており、凍結など低温に対する注意が必要になる場合があります。

また、気温に比べ最低気温はそれほど低くなることはなく、真冬日（最高気温が0℃未満の日）になることも、近年はほとんどありません。

《降雪・積雪》

初雪は11月中にみられることがありますが、積雪となるのは12月に入ってからが多くなっています。さらに12月の下旬から2月の中旬頃までは、本格的な降雪期となります。

1月は、降雪日数が19.1日、積雪日数が21.7日となっており、この時期の約3分の2にあたる期間が雪となります。

また、1日に降る最大降雪量も29cmと一気に多くの積雪となることがあり、最も積雪が多くなる時には50cmを超えることがあります。

ただし、積もった雪は天候が和らぐと解け、降雪があるとまた積もるということを繰り返します。

《湿度・日照時間》

富山の冬は、曇りや雪（雨）の日が多く、太平洋側の都市に比べ日照時間が少なく、湿度が高くなっています。



2. 外出については？

(1) 服装と携行品について

— コートや傘が必要です。 —

最低気温が氷点下になることもあるため、防寒着やコート類が必要となり、手袋やマフラーも体を温めてくれます。

ただし、防寒着やコート類も特段の寒冷地仕様である必要はなく、ごく一般的なもので十分です。

また、変わりやすい天気になることが多く、朝には雪が降っていなくても、昼過ぎや夕方に降雪となる場合もあるため、傘を持参することが多くなっています。

特に、急な降雪となる時には風が強くなることが多いため、傘は寒風から身を守ってくれることもありますので、冬の富山では傘は手放せなくなっています。

また、北陸の雪は水分を多く含むため、衣服が濡れることが多く、上着には撥水性の高い素材を使用すると早く乾くので便利です。



(2) 履物について

— 長靴が便利です。 —

歩道に積雪がある場合や、消雪用の水がたまっていることがありますので、長靴が便利です。(又は防水性の高いブーツなど)。

長靴は保温性にも優れ、除雪作業の際にも欠かせませんので、直前にあわてないように11月中には準備するようにしましょう。

また、長靴などが濡れた時は、新聞紙を中に入れて湿り気をとる方法がありますので、お試し下さい。

(3) 通勤や通学について

— 早めに出かけましょう。 —

通勤・通学など屋外を歩く時は、凍結や硬く踏み固められた積雪による転倒、消雪装置の水などがかからない様に注意しましょう。

一方、建物や看板など上方からの落雪にも注意する必要があります。

また、雪が降り続くと公共交通機関のタイヤが乱れやすくなりますので、通常よりも早めの出発に心がけましょう。

ほとんどの小学校では、集団登校を実施していますので、集合場所や時間を確認して、安全に登校しましょう。

特に、降雪時には視界が悪くなることや周囲の音が聞こえにくいことがありますので、歩行時には十分に注意しましょう。



3. 除雪については？

(1) 車道の除雪について

— ご協力をお願いします。 —

車道の除雪については、それぞれの道路管理者により行われるため、国道は国土交通省が、県道は富山県が、市道については富山市が行うこととなります。

市道は、幹線道路やバス道路等を優先して行い、道幅6m以上の市道を中心に機械除雪を行います。

除雪車が通った後は、道路わきに雪が溜まる場合がありますので、これらの雪の除雪については、住民の皆さんにご協力をお願いしています。

また、除雪車による作業は昼夜を問わず行うことがありますので、ご理解をお願いします。

(2) 玄関先などの除雪について

除雪機械による歩道除雪は駅周辺の通勤道路や、学校への通学道路に限られます。玄関先や自宅前の歩道の除雪は、住民の皆さんでお願いします。

除雪するときには、ほかの方の迷惑にならない場所に雪を捨てましょう。(地域や町内によって取り扱いを決めている場合がありますので、ご確認をお願いします。)



(3) 除雪道具について

— ホームセンターなどで準備しましょう。 —

主にスコップやスノーダンプを用います。ホームセンターなどでは色々な種類のものが揃っていますので、11月中には準備しておきましょう。

雪が降り続くと、売り切れや品薄になる場合がありますので、早めに準備するようにしましょう。

(4) 地域の除雪について

お住まいの町内会などの除雪活動に協力をしましょう。

万が一の災害や火災の発生に備え、消火栓や防火水槽などがすぐに使用できるように、また消防車や緊急車両の通行の妨げにならないように、地域での除雪活動にご協力をおねがいします。

(5) 屋根雪下ろしについて《山間部など》

降雪量が多くなると、山間部を中心に屋根雪下ろしが必要になる場合があります。

屋根雪下ろしが必要となる屋根への積雪量の目安については、建物の構造などによって大きく異なりますので、それぞれ居住されている住宅の関係する事業者などに事前に確認をしてください。

また、作業にあたっては、必ず2人以上で行い、携帯電話を持参の上、面倒でも命綱とヘルメットを使用し、屋根に登るはしごは必ず固定するようにしましょう。

特に、屋根の下は落雪による事故が多いので、子供などが立ち入らないよう、見張り役を置くなど十分に注意しましょう。



4. 自動車の利用については？

(1) 冬用タイヤの装着について

— 11月中にはタイヤ交換をしましょう。 —

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）が必要となります。早めにタイヤを準備して、11月下旬を目処にタイヤ交換をしておきましょう。

タイヤは、カー用品店、タイヤショップ、ガソリンスタンド、ディーラーなどで購入でき、タイヤ交換についてもこれらの店舗ですることができますが、混み合うことが想定されますので、11月中に行うか事前に予約しましょう。

また、冬期間の高速道路は冬季用タイヤを装着していないと走行できないことがありますのでご注意ください。

夏用タイヤに戻す時期については、天気予報に注意して積雪が見込まれないことを確認してから行いましょう。目処としては3月下旬から4月上旬になることが多いようです。

一方、スタッドレスタイヤには寿命があるとされています。3年から4年で買い換える場合もあるようですが、上記の店舗などでご相談下さい。



(2) 車載品等について

— スコップ・スノーブラシを準備しましょう。 —

積雪時に車の前後を除雪するためのスコップや車に積もった雪を落とすためのスノーブラシを準備しましょう。

このほか、低温でも凍結しないウォッシャー液や窓の曇り止めや氷解用スプレー等があると便利です。いずれも、カー用品店やホームセンターなどで11月中には準備しておきましょう。

また、バッテリーやワイパーは日頃から点検をして、フロントガラスやドアが凍結した際には、お湯や氷解スプレーを利用しましょう。

(3) 運転について

— 安全運転を心がけましょう。 —

スタッドレスタイヤを装着しているからといって過信しすぎないようにしましょう。

踏み固められた雪は氷状となり非常に滑りやすくなりますので、急発進、急ブレーキ、急ハンドルはスリップの原因となりますので、十分に注意しましょう。

特に夜中から朝方にかけては路面が凍結し、つるつるの状態（アイスバーン）となりスリップ事故が増えます。制限速度以下でも安全とはいえませんので、車間距離をあけ、早めに減速するなど安全運転を心がけましょう。

(4) その他の注意点

歩道を歩いている方への雪や水の跳ね上げに注意しましょう。

また、路上駐車は除雪作業の妨げになるばかりでなく、交通事故の原因となるおそれもあるのでやめましょう。



5. 日常生活については？

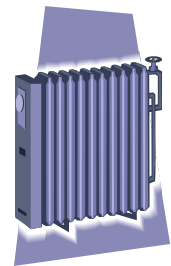
(1) 暖房について

— 部屋に応じて、暖房器具を選びましょう。 —

室内の暖房は、エアコン、ファンヒーター、ストーブ（石油・電気・ガス等）、蓄熱暖房機、こたつ、電気カーペットなど様々な器具がありますので、寒さや使用する場所などの状態に応じて、使用する暖房器具をお選び下さい。

ファンヒーターやストーブが効率的な場合、オール電化の建物の場合、火気を伴う暖房器具の使用が制限されている場合（高気密住宅）など、様々なケースがありますので、建物や部屋の広さやその状態、暖房器具の特徴などについて、ハウスメーカーや関係の事業者などに相談をするようにして下さい。

また、ストーブやファンヒーターを使用する際には、一定時間ごとに換気が必要になります。特に寝室や子ども部屋の換気には十分注意してください。



(2) 洗濯物干しについて

— 部屋干しの工夫と注意をしましょう。 —

12月から2月にかけては、降雪が多く気温も低いことから外で洗濯物を干せない日が多くなります。

乾燥機を使う家庭も増えていますが、日当たりの良い部屋や除湿機を使って部屋干しするケースが多いようです。

最近は、春先の花粉対策や黄砂対策として、冬以外でも部屋干しをする場合があるようです。

また、電気器具などは留守にする際には使用せず、くれぐれも火災には十分に注意しましょう。

特に、在宅中であってもストーブの上で洗濯物を干すことは、大変危険ですので、絶対に避けましょう。

(3) 水道について

— 凍結しないよう注意しましょう。 —

氷点下になると、水道管が凍結することがあります。

特に水道管がむき出しになっている場合や、北向きで風が強く当たる場所などが凍りやすいので、保温材などで凍結防止に努めましょう。

凍結してしまった場合には、蛇口や凍結したとみられる場所を徐々に温めるようにしてください。(タオルをかぶせ、ぬるま湯をかける等など)

急に熱いお湯をかけると、水道管や蛇口が破損する場合がありますので気をつけましょう。

また、長く水道を使わない場合には、凍結していないか定期的に確認するようにしましょう。

(4) その他

① 結露対策

冷え込むと外気との温度差などの理由により、窓や押入れなど、室内のいたるところが結露し、カビの発生の原因になります。

結露対策は様々なものが考えられますが、簡単に行えるものとしては、何より換気に努めることが効果的です。この外、除湿機を使って部屋の湿度を下げたり、結露防止シートを窓に貼るなどの方法がありますので、状況に応じて対策を講じてください。

② 浴室の乾燥

外気温が低いため、窓を開けることが少なくなるので、浴室は常に湿気を持っている状態になりがちです。カビ等の発生を防ぐためにも、定期的に乾燥させるようにしましょう。



この情報に関するお問い合わせ先は
富山市市民生活部 市民生活相談課
電話番号 (076) 443-2046

市道の除雪に関するお問い合わせ先は
富山市建設部 道路河川管理課
電話番号 (076) 443-2092